

大塚順一著「栃木 SC JA への軌跡」CRT 栃木放送 2009年2月11日刊を読む

新井賢太郎 栃木 SC 社長誕生

もはや辿る道は一つしかなかった。石にかじりついて核となる人物を探し当て、法人化にこぎ着けるしかなかった。

しかし、社業があってはサッカークラブの社長などは引き受けられるはずもなかった。協力を申し出る一方で、クラブ側の依頼を固辞したこの人物は、社長候補に一人の男の名前を挙げた。

各国に約 30 社の独立、合併、買収企業を設立した実績を持つ男。それが、新井賢太郎だった。

埼玉県熊谷市出身の新井は明治大学卒業後の 1957 年、日本ラジエーター(現・カルソニック・カンセイ株式会社)に入社。1976 年には米国・カリフォルニア州カルソニックを設立し、初代社長に就任する。その後、アメリカ、フランスなどで企業を設立しては、要職に就いていた。2001 年には、更正申し立てのあった「日興電機工業」の管財人を東京地方裁判所から命じられていたが、管財人の業務がちょうどこの 10 月に終結したばかりだった。

「株式会社栃木 SC の社長を引き受けてほしい」。この申し出に新井は大いに戸惑った。数々の企業設立に関わってきたが、サッカークラブの経営は初めてのことだ。それ以前にサッカーのことをよく知らなかった。

新井が出した結論は「NO」。「あまりにも負荷が高すぎる」として、クラブ側の懇願にも首を縦に振ることはなかった。こうして、社長擁立の話は、再び暗礁に乗り上げたのだった。

P.50 ~ 51

#### [ コメント ]

そこまで頼まれるのならと、やむにやまれぬ使命感を感じて新井賢太郎氏は無給の社長就任を承諾。以来、強烈なリーダーシップとその暖かみのある人望で栃木 SC を今日に導いた。感動のレポート。

- 2009年6月18日林明夫記 -